

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2024年4月24日

【四半期会計期間】 第27期第2四半期(自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)

【会社名】 株式会社サイバーエージェント

【英訳名】 Cyber Agent, Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役 代表執行役員 社長 藤田 晋

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区宇田川町40番1号

【電話番号】 (03)5459-0202 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 専務執行役員 中山 豪

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区宇田川町40番1号

【電話番号】 (03)5459-0202 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 専務執行役員 中山 豪

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第26期 第2四半期 連結累計期間	第27期 第2四半期 連結累計期間	第26期
会計期間	自 2022年10月1日 至 2023年3月31日	自 2023年10月1日 至 2024年3月31日	自 2022年10月1日 至 2023年9月30日
売上高 (百万円)	363,235	408,205	720,207
経常利益 (百万円)	17,891	27,788	24,915
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	2,898	9,866	5,332
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	8,128	15,297	12,687
純資産額 (百万円)	223,593	239,441	231,911
総資産額 (百万円)	428,812	499,775	477,826
1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	5.72	19.48	10.53
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	5.24	17.93	9.60
自己資本比率 (%)	32.7	29.8	30.2
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	14,080	23,008	20,822
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	12,012	10,929	40,290
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	15,410	8,429	53,491
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	185,281	205,575	201,780

回次	第26期 第2四半期 連結会計期間	第27期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2023年1月1日 至 2023年3月31日	自 2024年1月1日 至 2024年3月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	15.61	20.42

(注) 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当社グループは、インターネット広告市場やゲーム市場の成長を取り込みつつ、中長期の柱にすべくテレビのイノベーションをコンセプトに、いつでもどこでも繋がる社会インフラを目指す新しい未来のテレビ「ABEMA」への投資を継続し、当第2四半期連結累計期間における売上高は408,205百万円（前年同期比12.4%増）、営業利益は27,355百万円（前年同期比56.0%増）、経常利益は27,788百万円（前年同期比55.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は9,866百万円（前年同期比240.4%増）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

メディア事業

メディア事業には、「ABEMA」、「WINTICKET」等が属しております。

新しい未来のテレビ「ABEMA」関連事業が好調に推移し、売上高は84,880百万円（前年同期比26.8%増）、営業損益は829百万円の損失計上（前年同期間9,956百万円の損失計上）となりました。

インターネット広告事業

インターネット広告事業には、インターネット広告事業本部、AI事業本部等が属しております。

広告効果の最大化を強みに売上高が過去最高を更新し、売上高は212,658百万円（前年同期比8.6%増）、営業損益は11,573百万円の利益計上（前年同期比16.5%増）となりました。

ゲーム事業

ゲーム事業には、(株)Cygames、(株)Colorful Palette、(株)サムザップ、(株)アプリボット等が属しております。

新規タイトルのヒットと主力タイトルの周年イベントが奏功し、売上高は112,213百万円（前年同期比8.9%増）、営業損益は21,714百万円の利益計上（前年同期比6.4%増）となりました。

投資育成事業

投資育成事業にはコーポレートベンチャーキャピタル、(株)サイバーエージェント・キャピタルにおけるファンド運営等が属しており、売上高は880百万円（前年同期比27.6%減）、営業損益は960百万円の損失計上（前年同期間356百万円の利益計上）となりました。

その他事業

その他事業には、(株)マクアケ、(株)リアルゲイト等が属しており、売上高は16,199百万円（前年同期比9.6%増）、営業損益は545百万円の利益計上（前年同期比84.1%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

(総資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は499,775百万円(前連結会計年度比21,948百万円の増加)となりました。これは、主に売上高の増加に伴う受取手形、売掛金及び契約資産の増加によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は260,333百万円(前連結会計年度比14,418百万円の増加)となりました。これは、主に売上高の増加に伴う買掛金及び未払法人税等の増加によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は239,441百万円(前連結会計年度比7,530百万円の増加)となりました。これは、主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加によるものであります。

(自己資本比率)

当第2四半期連結会計期間末における自己資本比率は29.8%(前連結会計年度比0.4ポイント減)となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比べて3,795百万円増加し、205,575百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは23,008百万円の増加(前年同期間は14,080百万円の増加)となりました。これは、主に利益の計上及び法人税等の支払によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは10,929百万円の減少(前年同期間は12,012百万円の減少)となりました。これは、主に固定資産の取得によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは8,429百万円の減少(前年同期間は15,410百万円の増加)となりました。これは、主に配当金の支払いによるものであります。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題に重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、2,988百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,517,119,200
計	1,517,119,200

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2024年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2024年4月24日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	506,273,200	506,273,200	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数は100株 であります。
計	506,273,200	506,273,200	-	-

(注) 「提出日現在発行数」欄には、2024年4月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2024年1月1日～ 2024年3月31日	57,600	506,273,200	29	7,411	29	2,497

(注) 新株予約権(ストックオプション)の権利行使による増加であります。

(5) 【大株主の状況】

2024年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
藤田 晋	東京都港区	89,121,600	17.60
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区赤坂1丁目8-1 赤坂インターシティAIR	76,350,000	15.08
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	38,383,160	7.58
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140051(常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	240 GREENWICH STREET, NEW YORK, NY10286, USA (東京都港区港南2丁目15-1 品川インターシティA棟)	13,897,800	2.75
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT(常任代理人 香港上海銀行東京支店 カストディ業務部)	ONE CONGRESS STREET, SUITE 1, BOSTON MASSACHUSETTS(東京都中央区日本橋3丁目11-1)	11,946,881	2.36
JP MORGAN CHASE BANK 385632(常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	25 BANK STREET, CANARY WHARF, LONDON, E14 5JP, UNITED KINGDOM(東京都港区港南2丁目15-1 品川インターシティA棟)	11,394,956	2.25
MSIP CLIENT SECURITIES(常任代理人 モルガン・スタンレーMUFJ証券株式会社)	25 CABOT SQUARE, CANARY WHARF, LONDON E14 4QA, U.K.(東京都千代田区大手町1丁目9-7 大手町フィナンシャルシティサウスタワー)	8,468,862	1.67
GOVERNMENT OF NORWAY(常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	BANKPLASSEN 2, 0107 OSLO 1 OSLO 0107 NO(東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	7,202,243	1.42
BNY GCM CLINET ACCOUNT JPRD AC ISG(FE-AC)(常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	PETERBOROUGH COURT 133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB UNITED KINGDOM(東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	7,105,231	1.40
JP MORGAN CHASE BANK 380072(常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	25 BANK STREET, CANARY WHARF, LONDON, E14 5JP, UNITED KINGDOM(東京都港区港南2丁目15-1 品川インターシティA棟)	6,644,400	1.31
計	-	270,515,133	53.43

(注)1 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)の所有株式のうち、信託業務に係る株式数は39,477,600株であり、それらの内訳は投資信託設定分35,949,000株、年金信託設定分3,528,600株となっております。
株式会社日本カストディ銀行(信託口)の所有株式のうち、信託業務に係る株式数は25,114,260株であり、それらの内訳は投資信託設定分22,659,760株、年金信託設定分2,454,500株となっております。

(注)2 2024年4月4日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、野村證券株式会社及びその共同保有者2社が2024年3月29日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2024年3月31日時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋一丁目13番1号	4,801,967	0.94
ノムラ インターナショナル ピーエルシー(NOMURA I NTERNATIONAL P L C)	1 Angel Lane, London EC4R 3AB, United Kingdom	2,987,936	0.58
野村アセットマネジメント株式会 社	東京都江東区豊洲二丁目2番1号	23,601,141	4.65
計	-	31,391,044	6.05

(注) 3 2023年12月12日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、ベイリー・ギフォード・アンド・カンパニー(Baillie Gifford & Co)及びその共同保有者であるベイリー・ギフォード・オーバーシーズ・リミテッド(Baillie Gifford Overseas Limited)が2023年12月7日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2024年3月31日時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
ベイリー・ギフォード・アンド・カンパニー(Baillie Gifford & Co)	カルトン・スクエア、1グリーンサイド・ロウ、エジンバラ EH1 3AN スコットランド	28,356,200	5.60
ベイリー・ギフォード・オーバーシーズ・リミテッド(Baillie Gifford Overseas Limited)	カルトン・スクエア、1グリーンサイド・ロウ、エジンバラ EH1 3AN スコットランド	27,796,265	5.49
計	-	56,152,465	11.10

(注) 4 2023年12月6日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社及びその共同保有者である日興アセットマネジメント株式会社が2023年11月30日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2024年3月31日時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	東京都港区芝公園一丁目1番1号	15,647,200	3.09
日興アセットマネジメント株式会社	東京都港区赤坂九丁目7番1号	11,109,449	2.19
計	-	26,756,649	5.28

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2024年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 506,094,600	5,060,946	権利内容に何らの限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 177,600	-	-
発行済株式総数	506,273,200	-	-
総株主の議決権	-	5,060,946	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の失念株式が111,200株含まれております。また「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1,112個が含まれておりません。

【自己株式等】

2024年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) (株)サイバーエージェント	東京都渋谷区宇田川町 40番1号	1,000	-	1,000	0.00
計	-	1,000	-	1,000	0.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2024年1月1日から2024年3月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年10月1日から2024年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	199,579	204,506
受取手形、売掛金及び契約資産	83,372	96,279
棚卸資産	1 8,977	1 10,647
営業投資有価証券	19,034	17,848
その他	40,768	39,527
貸倒引当金	489	443
流動資産合計	351,242	368,366
固定資産		
有形固定資産	24,586	24,865
無形固定資産		
のれん	7,084	6,861
その他	26,473	26,021
無形固定資産合計	33,557	32,882
投資その他の資産		
その他	68,452	73,687
貸倒引当金	77	82
投資その他の資産合計	68,375	73,605
固定資産合計	126,519	131,353
繰延資産	64	55
資産合計	477,826	499,775
負債の部		
流動負債		
買掛金	71,597	72,742
短期借入金	3,142	765
未払法人税等	3,115	10,521
1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債	-	20,037
その他	55,507	60,245
流動負債合計	133,362	164,312
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	60,584	40,482
長期借入金	43,355	45,558
勤続慰労引当金	3,401	3,488
資産除去債務	2,406	2,619
その他	2,803	3,872
固定負債合計	112,552	96,021
負債合計	245,915	260,333
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,369	7,411
資本剰余金	12,218	12,282
利益剰余金	117,448	119,748
自己株式	1	1
株主資本合計	137,034	139,439
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,196	8,973
為替換算調整勘定	191	318
その他の包括利益累計額合計	7,388	9,291
新株予約権	2,092	2,361
非支配株主持分	85,396	88,348
純資産合計	231,911	239,441
負債純資産合計	477,826	499,775

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年10月1日 至2023年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年10月1日 至2024年3月31日)
売上高	363,235	408,205
売上原価	262,042	292,626
売上総利益	101,192	115,578
販売費及び一般管理費	83,661	88,223
営業利益	17,531	27,355
営業外収益		
受取利息	92	111
受取配当金	148	149
受取賃貸料	237	309
その他	241	287
営業外収益合計	720	857
営業外費用		
支払利息	25	111
減価償却費	82	92
持分法による投資損失	-	16
その他	251	204
営業外費用合計	359	424
経常利益	17,891	27,788
特別利益		
投資有価証券売却益	-	71
事業譲渡益	60	117
その他	1,329	113
特別利益合計	1,389	302
特別損失		
減損損失	554	3,341
事業撤退損	55	1,758
その他	720	360
特別損失合計	1,331	5,460
税金等調整前四半期純利益	17,949	22,630
法人税、住民税及び事業税	10,028	9,879
法人税等調整額	172	895
法人税等合計	10,201	8,983
四半期純利益	7,748	13,646
非支配株主に帰属する四半期純利益	4,849	3,780
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,898	9,866

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年10月1日 至2023年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年10月1日 至2024年3月31日)
四半期純利益	7,748	13,646
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	603	1,543
為替換算調整勘定	84	81
持分法適用会社に対する持分相当額	139	25
その他の包括利益合計	380	1,651
四半期包括利益	8,128	15,297
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,109	11,769
非支配株主に係る四半期包括利益	5,018	3,527

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	17,949	22,630
減価償却費	3,749	5,739
減損損失	554	3,341
売上債権及び契約資産の増減額(は増加)	17,495	12,908
営業投資有価証券の増減額(は増加)	1,889	605
棚卸資産の増減額(は増加)	1,530	1,779
仕入債務の増減額(は減少)	9,902	1,065
未払消費税等の増減額(は減少)	3,320	5,523
事業撤退損	55	1,758
その他	1,903	2,327
小計	16,520	23,648
利息及び配当金の受取額	162	195
利息の支払額	25	111
法人税等の支払額	2,577	723
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,080	23,008
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産及び投資不動産の取得による支出	4,394	1,883
無形固定資産の取得による支出	5,562	6,412
その他	2,055	2,633
投資活動によるキャッシュ・フロー	12,012	10,929
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	3,262	2,377
長期借入れによる収入	171	3,304
長期借入金の返済による支出	823	1,176
配当金の支払額	7,075	7,579
その他	19,875	602
財務活動によるキャッシュ・フロー	15,410	8,429
現金及び現金同等物に係る換算差額	232	70
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	17,246	3,720
現金及び現金同等物の期首残高	168,035	201,780
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(は減少)	-	75
現金及び現金同等物の四半期末残高	185,281	205,575

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 棚卸資産の内訳

	前連結会計年度 (2023年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
商品	5,768百万円	7,416百万円
仕掛品	2,832百万円	3,177百万円
その他	377百万円	53百万円
計	8,977百万円	10,647百万円

2 偶発債務

当社の連結子会社である株式会社Cygames（以下、Cygames）は、2023年3月31日付（訴状送達日：2023年5月10日）で、株式会社コナミデジタルエンタテインメント（以下、コナミデジタルエンタテインメント）より特許権侵害に関する訴訟を提起されており、内容は以下のとおりであります。

(1) 訴訟の原因及び提起されるに至った経緯

Cygamesは、コナミデジタルエンタテインメントとCygamesが提供する「ウマ娘 プリティーダービー」のゲームシステムおよびプログラムの一部について、特許権等の協議を行ってまいりましたが、Cygamesの見解がコナミデジタルエンタテインメントに受け入れられるには及ばず訴訟の提起に至ったものです。

(2) 訴訟を提起した者

名称 株式会社コナミデジタルエンタテインメント
所在地 東京都中央区銀座1丁目11番1号
代表者 代表取締役社長 早川 英樹

(3) 訴訟内容

訴えの内容

Cygamesが提供しているゲーム「ウマ娘 プリティーダービー」の特許権侵害に基づく損害賠償等請求およびそれらの生産、使用、電気通信回線を通じた提供等の差止請求等

訴訟の目的物及び価額

損害賠償等請求：4,000百万円及び遅延損害金

差止請求の対象ゲーム：「ウマ娘 プリティーダービー」

(4) 今後の見通し

当社は、Cygamesが提供する「ウマ娘 プリティーダービー」がコナミデジタルエンタテインメントの特許権を侵害している事実はないものと考えており、その正当性を本件訴訟にかかる手続きの中で明らかにしていく方針です。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)
広告宣伝費	31,205百万円	33,499百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)
現金及び預金勘定	183,260百万円	204,506百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	- 百万円	3百万円
プロジェクト預り用預金	2,021百万円	1,073百万円
現金及び現金同等物	185,281百万円	205,575百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年12月9日定 時株主総会	普通株式	7,082	14	2022年9月30日	2022年12月12日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年12月8日定 時株主総会	普通株式	7,592	15	2023年9月30日	2023年12月11日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期連結損益計 算書計上額
	メディア	インター ネット広告	ゲーム	投資育成	その他	計		
売上高								
顧客との契約から生じる 収益(注2)	62,651	183,793	102,858	1,217	12,713	363,235	-	363,235
(1) 外部顧客への売上高	62,651	183,793	102,858	1,217	12,713	363,235	-	363,235
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	4,308	12,077	202	-	2,062	18,651	18,651	-
計	66,960	195,871	103,061	1,217	14,775	381,886	18,651	363,235
セグメント利益又は損失 ()	9,956	9,938	20,414	356	296	21,049	3,518	17,531

(注) 1. セグメント利益の調整額 3,518百万円は全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. 顧客との契約から生じる収益以外の収益の額については重要性がないことから、顧客との契約から生じる収益と区分して表示しておりません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「インターネット広告」、「ゲーム」、「その他」セグメントにおいて、一部サービスの収益性低下及びサービスの廃止等により当初想定していた収益及び費用削減が見込めなくなったため、減損損失として特別損失に計上しました。なお、当第2四半期連結累計期間における当該減損損失の計上額は下表のとおりであります。

インターネット広告	227百万円
ゲーム	293百万円
その他	33百万円
合計	554百万円

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自2023年10月1日至2024年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期連結損益計 算書計上額
	メディア	インター ネット広告	ゲーム	投資育成	その他	計		
売上高 顧客との契約から生じる 収益(注2)	80,023	201,795	112,042	880	13,462	408,205	-	408,205
(1) 外部顧客への売上高	80,023	201,795	112,042	880	13,462	408,205	-	408,205
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	4,856	10,863	171	-	2,736	18,627	18,627	-
計	84,880	212,658	112,213	880	16,199	426,833	18,627	408,205
セグメント利益又は損失 ()	829	11,573	21,714	960	545	32,042	4,687	27,355

- (注) 1. セグメント利益の調整額 4,687百万円は全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. 顧客との契約から生じる収益以外の収益の額については重要性がないことから、顧客との契約から生じる収益と区分して表示しておりません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「メディア」、「インターネット広告」、「ゲーム」、「全社」セグメントにおいて、一部サービスの収益性低下及びサービスの廃止等により当初想定していた収益及び費用削減が見込めなくなったため、減損損失として特別損失に計上しました。なお、当第2四半期連結累計期間における当該減損損失の計上額は下表のとおりであります。

メディア	112百万円
インターネット広告	260百万円
ゲーム	2,968百万円
全社	0百万円
合計	3,341百万円

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	5円72銭	19円48銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	2,898	9,866
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	2,898	9,866
普通株式の期中平均株式数(株)	505,988,611	506,225,993
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	5円24銭	17円93銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純利益調整額(百万円)	65	52
(うち受取利息(税額相当額控除後)(百万円))	(52)	(44)
(うち子会社及び関連会社の発行する潜在株式による調整額(百万円))	(13)	(8)
普通株式増加数(株)	34,013,933	41,062,147
(うち転換社債型新株予約権付社債(株))	(32,457,286)	(39,311,745)
(うち新株予約権(株))	(1,556,647)	(1,750,402)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年4月24日

株式会社サイバーエージェント

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

広瀬

勉

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

村山

拓

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社サイバーエージェントの2023年10月1日から2024年9月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2024年1月1日から2024年3月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年10月1日から2024年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社サイバーエージェント及び連結子会社の2024年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期

連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。